

耳鼻咽喉科シニアレジデントプログラム (短期ローテートプログラム)

1. 診療科の特色とスタッフ紹介

1) 特色

当院は、地域の中核病院であり、充実した救急センターを要し、また病診連携も十分機能していることから、多彩な症例を有する。

頭頸部腫瘍、中耳炎・副鼻腔炎・咽喉頭炎などの感染症、難聴・めまいなどの神経耳科学的疾患などを扱う。また NST チームの一員として嚥下障害の検査・治療も行っている。

手術は、鼻副鼻腔疾患の内視鏡手術のほか、甲状腺・唾液腺腫瘍などの頭頸部外科手術、扁桃摘出術、喉頭微細手術等を年間約 250 件施行している。頭頸部悪性腫瘍に対しても積極的に手術療法を施行し、術後放射線治療も施行している。

2) スタッフ

部長 荒木 倫利

資格等：日本耳鼻咽喉科学会専門医、臨床研修指導医、めまい担当医

医員 鈴木 学

資格等：日本耳鼻咽喉科学会専門医、臨床研修指導医

シニアレジデント 前田美紀

2. 研修期間

短期ローテート（1～3ヶ月）：積極的に受け入れる

専門医を目指す場合：大阪医科大学耳鼻咽喉科学教室など他施設での研修も必要時に考慮する。希望者には、相談の上個別にプログラムを作成する。

3. 目標

G10 ほかの診療科での専門医を目指す医師に対し、耳・鼻腔・咽頭・喉頭・頸部の観察・診断・簡単な治療・専門医への consult が必要かどうかの判断ができることを目指す。特に危険な気道閉塞を伴う感染症（緊急を要する上気道感染症）の診断する能力を修得する。

- SBO
- 1) 電気耳鏡、喉頭ファイバー、頸部エコー等が扱え、所見がとれる。
 - 2) CT・MRI等の画像、超音波エコー検査、聴力検査・平衡機能検査等の機能検査の適切なオーダーが行え、結果を判定できる
 - 3) 問診・視診・検査等から診断が行え、治療方針が立てられる。
 - 4) すぐには外科的処置を必要としない疾患（顔面神経麻痺、めまい、急性感染症など）の治療ができる

4. 方略 LS

- 1) 外来診療を見学する。できる限り多く所見をとり、正常所見・異常所見を鑑別する目を養う。
- 2) 手術は清潔ではいり、指導医のもとで参加する。
- 3) 入院患者の主治医となる。特に顔面神経麻痺やめまい、急性感染症等については、治療計画を立て、治療を行う。

週間スケジュール：

	月	火	水	木	金	土
A	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診
M	外来診療	手術	外来診療	手術	外来診療	外来診療
P	嚥下外来	手術	対診	手術	対診	手術
M	カンファ	術後回診		術後回診	紹介外来	(日帰手術)

5. 評価

研修記録、経験症例、経験手技などにつき自ら記録を残し、研修終了時に部長と面談時に提示し、評価を受ける。